

# 本で見る佐賀

平成17年10月までに県立図書館で受け入れた図書の中から、佐賀に関する本を探してみましたのでご紹介します。また、これらの本は東京や大阪の県人会をはじめ福岡情報センターなどにも“本で見る佐賀”としてお知らせしています。

## 佐賀地名うんちく事典

福岡 博 / 著  
佐賀新聞社 / 刊

市町村合併がすすみ「地名革命時代」ともいえる今日、将来に残す文化遺産として、県内各地の地名に託された様々な由来や秘密を辿っていきながら書かれた解説書。



## 吉野ヶ里遺跡

七田 忠昭 / 著  
同成社 / 刊

大環壕集落跡・吉野ヶ里遺跡について、最新情報をふまえてやさしく解説した本。吉野ヶ里歴史公園の整備も平成19年春に計画されている「南のムラ」と「墳丘墓覆屋」の公開をもって、環壕集落ゾーンの整備が完了予定。



## 精町から佐賀の乱を読む

片桐 武男 / 著  
佐賀新聞社 / 刊

北海道の首席開拓使、明治天皇の侍従などを務めた島義勇や、能更といわれた江藤新平のエピソードと、「佐賀の乱」の背景を紹介した本。



## 国絵図の世界

国絵図研究会 / 編  
柏書房 / 刊

江戸幕府が諸国の大名たちに作成させた国土基本図六十余州を国別に収録した書。県関係では、三代佐賀藩主鍋島綱茂が絵図元となり、幕府へ献上した「元禄肥前国絵図」(鍋島報効会蔵)などについて写真とともに紹介。



## 島の名前 日本編

中村 庸夫 / 文・写真  
東京書籍 / 刊

写真とともに島の名前の歴史や由来を綴った書。県関係では、宝当神社がある「高島」、神功皇后が神々を集めたことに由来する「神集島」、百済の王・武寧王が誕生したとの伝説がある「加磨島」、また、ロザリオの島とも呼ばれている「松島」などを紹介。



## 森、里、川、海をつなぐ自然再生

自然再生を推進する市民団体連絡会 / 編  
中央法規出版 / 刊

失われた、あるいは失われつつある自然環境を回復させるため、住民やNPO、専門家、行政などが連携して取り組んでいる「自然再生」の先駆的事例を紹介した本。県関係では、松浦川中流域にある湿原「アザメの瀬(唐津市相知町)」を収録。



## 日本の文化的景観

文化庁文化財部記念物課 / 監修  
同成社 / 刊

文化庁が実施した「農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究」の報告書。県関係では、「藤野の棚田(唐津市相知町)」、「岳の棚田(西有田町)」、「佐賀平野の掘割(千代田町)」などを収録。



## 書

石川 九揚 / 著  
中央公論新社 / 刊

具体的に書を鑑賞し、ときには書を指でなぞりながら「書く」という行為を追体験しつつ、東アジアの文化の根底をなす「書く」ことの意味を説き明かす本。県関係では、明治の政治家として活躍した副島種臣(号:蒼海)の書「山高水長」について解説。



## あこがれの陶芸生活入門

西田 成夫 他 / 著  
PHP研究所 / 刊

やきもの作りは、最高の道楽、生涯の趣味。あこがれの陶芸生活を実践する人々と、全国の主な陶芸教室を紹介した本。県関係では、唐津市の陶芸教室と、そこに通う陶芸歴7年の吉田忠子氏(忠華陶房)を収録。



## 陶道一心

江口 勝美 / 著  
佐賀新聞社 / 刊

県重要無形文化財の陶芸家である著者の下積み時代から一貫して焼き物の「質」と「個性」にこだわり続けた半生を書き下ろした本。



## 大隈重信

大園 隆二郎 / 著  
西日本新聞社 / 刊

大隈重信を育てたものは、少年時代を過ごした佐賀の風土であり、多くの人たちのよい影響であった。誕生から青少年期に重点をおき大隈の揺籃期を描いた書。



## 佐賀士魂

松永 義弘 / 著  
実業之日本社 / 刊

「葉隠」の武士道で有名な肥前・佐賀藩(36万石)、譜代大名の唐津藩(6万石)。その趣の異なる2つの佐賀を舞台に、義を守りぬいて生きた武家の男と女などを描いた時代小説。

